

高速道路整備の一層推進を



足立議員 参院国交委で主張

自民党の足立敏之参院議員は、道路整備特別措置法など改正案の審議が行われた30日の参院国土交通委員会で、国土交通省に高速道路整備の進め方を質問した。日本と欧米や韓国を比較した高速道路整備水準のデータを示しながら「世界から見ると、日本の高速道路は二流、三流だ」と指摘し、改

正法案を成立させて国際競争力強化などの観点から整備を一層進める必要があると主張した。写真。

足立議員は、日本の高速道路は暫定2車線区間が40%を占める一方、欧米や韓国はほぼ全区間が4車線以上で整備され、こうした国

と比べて日本の都市間連絡速度は遅く、国土面積当たりの高速道路延長も短いと指摘。「都市間連絡速度は、輸送コストに直結し、製品コストに影響を与える。国際競争という観点で見ても、日本は非常に残念な状況にあると言わざるを得ない」と述べた上で、「低いレベルの高速道路を立て直してい

くためには、今回の法律を通して、道路整備をしっかりと進めていくことが不可欠」と主張した。

ミッシングリンクと暫定2車線区間の解消、老朽化対策などの必要性を示し、高速道路の料金徴収期間を最長2115年まで延長することで確保される財源の用途を質問した。丹羽克彦国交省道路局長は「更新事業は適切に実施されなければ、高速道路の安全が担保されないことから、改正法案で確保される財源は更新事業に優先して充当する。その上で、国土強靱化などの社会的要請を踏まえ、交通事故が集中する区間または災害時の通行止めリスクが高い区間の4車線化、耐震補強などの進め事業を行うことも必要と考えている」と答弁した。